

省略における境界線をめぐる冒険： ズれているくらいがちょうどいい？

講師: 佐藤陽介

津田塾大学・准教授

日時

2026年3月7日(土)

14:00-16:00

使用言語: 日本語

参加費: 無料

事前申し込みをお願いします。



会場: 京都大学

吉田南1号館3階 1共33



<https://forms.gle/vvFwMMQkCtrCAW259> <https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r-ys>

本発表では、スルーシング、動詞句省略、項省略、同語反復条件文やいわゆるMaxElide効果に関わる省略文を考察すると、統語的同一性を条件とする省略構文では、その実際の削除部位がその同一性を満たす領域よりも**なぜか大きく**、一方、意味的同一性を認可要因とする省略構文では、その削除部位がその同一性計算領域よりも**なぜか逆に小さく**なっていることがわかります。この観察をもとに、省略現象にまつわる意味同一性領域と削除領域というのは自然言語において根本的にズれているとする「省略のミスマッチ理論」を提案します。さらに、このような発音・外在化と意味計算部門がなぜ提案する形でズれているのかという根本的な問題に対しても、現行の極小主義プログラムの言語インターフェイスモデルからその答えを考えてみます。

問い合わせ先 ギンズバーグ ジェイソン
ginsburg.jasonrobert.2h@kyoto-u.ac.jp

京都大学 人間・環境学研究所 言語科学講座